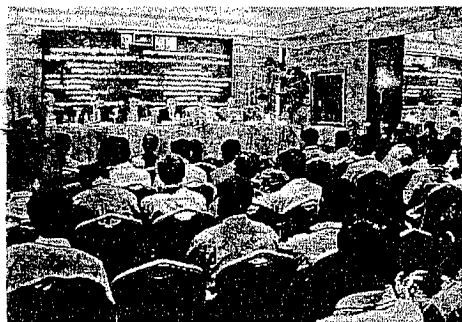


カンボジアで第3次研修

グリーン
テクノロジー 人材育成支援へ事業拡大



日本技術士会は、カンボジアの経済発展と技術者教育を支援するため、吉武進也・カンボジア技術協力フォーラム会長を団長とする5人の技術士を派遣し、第3次グリーンテクノロジー研修を首都・プノンペンで開講した。現地ではとくに「あすの国づくり」を担う人材育成への期待が大きい。ため、現行研修制度の長期継続、拡充強化と同時に、ミャンマー、ラオスなど近隣諸国からの同様の要請にもこたえていきたい考えだ。

5日の開講式＝写真＝にはイト・プラ

ン鉱工業エネルギー副大臣をはじめ、ラウ・チュウ・イウ・プノンペン王立大学学長、ミア・ソッコム・カンボジア技術者協会会長らの要人が出席。研修の開催を宣言した同副大臣は、「人材育成を支援し、さらに具体的な方向へ協力事業を継続していただきたい。すなわち、人材育成を継続するとともに、パイロットプロジェクトのような形で工場や企業、農園その他の場所に広げて具体的に実施してほしい」と述べた。

今回の第3次研修は、農産物（食品）加工技術、環境に配慮したエネルギー開発技術が5—9日、情報応用技術が来年2月13—17日の各5日間。それぞれ20—30代の若手技術者約20人を対象とし、佐藤正忠、加藤洋、高城（たき）重厚、長谷川孝道、本間勝、橋本義平氏のベテラン技術士が講師を務める。

日本技術士会のカンボジア技術支援、グリーンテクノロジー研修は、経済産業省、海外技術者研修協会（AOTS）の後押しで昨年1月から実施している。吉武団長によると、現地からは好意的な評価を得ており、実務的な研修や地方都市での開催を望む声強い。



首都・プノンペンで開講した第3次グリーンテクノロジー研修。現地ではとくに「あすの国づくり」を担う人材育成への期待が大きい